

<p>日本建築学会北海道支部 2016 年度 通常総会</p>

日時 2016 年 5 月 20 日 (金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2015 年度総会議案

I 2015 年度事業報告

日本建築学会北海道支部ホームページは、本部と連動しながらもブログツールや Facebook などを用いた支部独自の HP 作成予算を計上し、準備検討ワーキングで情報内容の取捨選択などに関し検討され、テストバージョンが作られた。日常的に運営される HP 管理委員会規定も改正し、2016 年 5 月には新しい HP に切り替わる。

主だった活動を記載する。第 88 回支部研究発表会が北海学園大学山鼻キャンパス（札幌市）において開催し、発表題数 100 題と前年 119 題に対し減ったが、活発な討論が行われた。特別企画は「防災研究の成果と地域住民ニーズの接点～研究の深さと横の広がり～」をテーマとした。北海道支部における防災体験学習の取り組みについて南慎一君からの報告があり、釧路の事例研究などのパネルディスカッションが開催された。同時に今年で二回目となる企業参加のパネル展（8 団体参加）を開催した。また支部発表会において若手発表者を顕彰する「北海道支部研究発表会優秀講演奨励賞」は今回で 5 回目である。北海道建築作品発表会は第 35 回を迎え、30 作品の発表とフォーラム討論が北海道近代美術館において開催された。

表彰関係では、北海道の建築技術、文化の継承に対する評価を会員外も対象に募集・審査する北海道支部技術賞がある。今年度は「寒冷地における高断熱住宅に適合した汎用標準品ヒートポンプ エアコン 1 台によるダクト式暖冷房換気技術」と「外気冷房型データセンターの構築技術の開発と運用実績の検証」の 2 件が表彰となった。

北海道建築賞は第 40 回目となり、北海道建築賞には中山眞琴君、山脇克彦君の「籤 HIGO」の設計が、北海道建築奨励賞は山田 良君「中の沢川の家」の設計が受賞した。授賞式後、記念講演会が開催された。また各賞の選定に関する透明性については、各賞の選考委員名や同内規、表彰規定ならびに過去の受賞作の審査経緯も含めて支部 HP に掲載されている。

旭川総合庁舎は 1959 年建築学会賞、その後 DOCOMOMO100 選の佐藤武夫設計の建築であるが新庁舎新築において取り壊しの可能性を含んでいるため学会長名による「旭川総合庁舎の保存活用に関する要望書」を旭川市長に 11 月 26 日提出し、1 月 21 日歴史文化の評価と保存維持の費用を示しながら市民、市議会で議論するとの回答があった。

日本建築学会「女性会員の会」は、学会男女参画推進委員会から、建築分野で働く女性会員の意見交換や社会へ出てゆく女子学生との交流と提言を目的として、支部単位の発足である。北海道支部では幹事役に女性常議員にお願いし進めており、6 月には第一回会合を予定している。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2015 年 5 月 15 日

会場 北海道建設会館

出席正会員 51 名（委任状 17 通）

当支部地域在住正会員 862 名の 30 分の 1、28 名以上の出席により成立

2014 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2015 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

◆ 支部役員会

7 回開催（通信支部役員会含）

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会（主査：齊藤 雅也君，委員数：14名，委員会開催数：4回）

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および特定課題研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および道内工業高校巡回講演会講師派遣について議論し決定した。また、北海道支部技術賞の募集および技術賞選考委員会の設置に基づいて表彰技術候補の選考を行なった。2015年度の支部研究発表会において「技術パネル展示」を開催した。詳細は以下の通り。

(1) 研究助成（特定課題研究：継続）

「寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究」森 太郎主査 2015-16

(2) 北海道支部技術賞選考委員会

2015年度支部技術賞は、下記3件の応募（応募順・技術名のみ記載）があり、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点から下記(a)および(b)の2件を表彰候補技術として選定した（選定理由は支部技術賞の項目を参照）。

(a) 寒冷地における高断熱住宅に適合した汎用標準品ヒートポンプ エアコン1台によるダクト式暖冷房換気技術

(b) 外気冷房型データセンターの構築技術の開発と運用実績の検証「さくらインターネット石狩データセンター」

(c) 地下鉄コンコース内における広場空間の形成

(3) 建築文化週間事業

2015年度 事業として以下の2つの催事を実施した。

・歴史意匠専門委員会＋都市計画専門委員会＋環境工学専門委員会：「道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために 一国指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として（2015.10.10，会場：札幌市立大学サテライトキャンパス）」

・都市防災専門委員会：「地震時の我が家のバーチャル体験（2015.10.31，会場：釧路管内）」

(4) 支部研究発表会 技術パネル展（詳細は、4. 支部研究発表会を参照）

2015年度の支部研究発表会（会場：北海学園大学工学部）において技術パネル展を開催し、8団体から、建築計画、材料施工、環境工学、北方型住宅、歴史意匠などに関わる技術パネルの出席があった。昼休みと懇親会にてパネル発表の時間枠を設け、盛会に終了した。

(5) 支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

支部ホームページ管理委員会と連携し、支部公式ウェブサイトのシステムおよびコンテンツ更新準備を完了した。また、支部活動の広報力を増強するため、支部公式ウェブサイトに加えて、支部公式 Facebook の運用を開始した。それに伴い、支部ホームページ管理規定を改定した。なお、支部公式ウェブサイトは、2016年4月半ばに旧版から更新版への切替予定（支部研究発表会の登録締切後を予定）。

(6) 道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

・室蘭工業高校に都市計画専門委員会：岡本浩一委員（北海学園大学）を派遣し、講演「まちづくりはひと（2015.3.15）」を実施した。

・名寄産業高等学校に北方系専門委員会：立松宏一委員（北方建築総合研究所）を派遣し、講演「農業、漁業施設の室内環境とエネルギー（2015.3.17）」を実施した。

また今年追加で下記の高校でも実施した

・苫小牧工業高校に構造専門委員会：岡崎太郎委員（北海道大学）を派遣し、講演「建築構造を裏づける科学（2015.3.14）」を実施した。

<今後の予定：（ ）は担当専門委員会>

・2016年度：札幌工業高校（材料施工専門委員会）、函館工業高校（建築計画専門委員会）

・2017年度：歴史意匠専門委員会、都市防災専門委員会

・2018年度：構造専門委員会、環境工学専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：長谷川拓哉君，委員数：26名，委員会開催数：5回）

2015年度は、専門委員会を2ヶ月に1回程度の割合で、計5回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当者を決め報告をしていただき、最近の研究動向について意見の交換を行った。今年度より、設計事務所、混和材関連会社等の方に新規委員に就任いただき、活性化を図った。2015年7月31日（木）に「苫東厚真発電所」を主催で、2016年1月21日（木）に「札幌医科大学教育研究施設I改築工事」の現場見学会を構造専門委員会と共催で行った。

◆ 構造専門委員会（主査：串山 繁君，委員数：22名，委員会開催数：2回）

- 1) 構成委員数は22名
- 2) 委員会は、6月26日、12月10日の2回開催（2回共都市防災専門委員会と合同）し、他に幹事会を1回10月5日に開催、幹事会のメール審議を9,10,2月に3回行った。
- 3) 講演会は、7月3日に菊地優先生（北大）の「2015AIJ賞（論文）受賞記念講演会」を北大と共催、7月9日山脇克彦氏（山脇克彦建築構造設計）「構造デザインとエンジニアリング～鉄骨の可能性～」を鉄鋼連盟と共催、11月10日鳥井信吾氏（日建設計）「建築構造設計とその周辺に今求められていること－BIM/EFT/NSmos-」を鉄鋼連盟と共催、合計3回開催した。
- 4) 見学会は1回、1月21日に「札幌医科大学教育研究施設I改築工事」の現場見学会を材料施工専門委員会と合同で実施した。
- 5) 勉強会は、12月10日に嘉村武浩氏（北海道日建設計）を講師として「グランフロント大阪におけるうめきたシップと連絡デッキの設計」について行った。
- 6) 苫小牧工業高校からの要請で、北大の岡崎太一郎先生が「建築構造を裏づける科学」と題して3月14日に講演した。

◆ 環境工学専門委員会（主査：森 太郎君，委員数：14名，委員会開催数：3回）

- 1) 第2回委員会にて、若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握した。（2015/10/5，北海道大学工学部A115会議室，立松宏一氏（北方建築総合研究所），20名）
- 2) 北海道大学建築環境学研究室，歴史意匠学研究室と共催で、「北方圏のまちづくり・エネルギー・木造建築に関する国際シンポジウム」を支援した。（2015/10/15，北海道大学遠友学舎，主催；北海道大学大学院工学研究院建築環境学研究室，建築史意匠学研究室，三宅理一氏他，約70名）
- 3) 日本建築学会東北支部，「冬の避難所でどう過ごす？～避難所運営のゲーム体験ワークショップと講演～」を支援した。（2015/10/24，宮城教育大学附属図書館1Fスパイラルラボ，主催：日本建築学会東北支部，根本昌宏氏他，15名）
- 4) 住宅見学会「イヌエンジュの家」を北方系住宅委員会，建築計画委員会と共催した。（2015/11/14）
- 5) 「第10回環境工学系・卒業論文発表会EGGs'15」を開催した。10周年企画として，EGGs'卒業生による座談会を実施した。（2016/3/10，札幌市立大学サテライトキャンパス，全27題，田中優氏（北海道電力）他，70名）
- 6) 北海道支部地区講演会（札幌）“ZEB実現に向けた環境共生技術～実務から見た課題と展望”を支援した。（2016/2/16，北海道大学学术交流会館，主催：空気調和・衛生工学会北海道支部，梶山隆史氏（大成建設株），塚見史郎氏（株北海道日建設計），50名）

◆ 建築計画専門委員会（主査：真境名達哉君，委員数：13名，委員会開催数：1回）

本年度も昨年度から継続して、これまでの活動実績を踏まえつつ、公開研究会や勉強会の充実を図り、精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、取り組んだ。具体的には、2016年2月6日に公開研究会「空き家時代の中古住宅の価値発掘と活用戦略」を、北方系住宅専門委員会との共催で開催、また2月17日には、福田委員による障害者施設の研究発表および北海道札幌視覚支援学校の見学会を開催した。

◆ **都市計画専門委員会**（主査：岡本 浩一君，委員数：14名，委員会開催数：3回）

- 1) 構成委員数：14名
- 2) 委員会開催数：3回（第1回：9月14日，第2回：10月27日，第3回：2月1日）
- 3) 構成委員等：主査の交代および委員の交代（4名）があった。
- 4) 活動の内容：都市計画専門委員会のあり方と役割について改めての議論を開始した。人口減少時代を迎え、都市計画は幅広くあらゆる分野との関わりと相互理解ならびに協力がこれまで以上に求められるとの観点から、様々な方面・分野の方々との意見交換および情報発信に取り組む方向性を確認した。また、北海道における都市計画・まちづくりについて、中長期の視点・視野を持ち、求められる都市像の検討とその実現方策についての議論も始めつつある。

◆ **歴史意匠専門委員会**（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名，委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に発言する活動を行った。

- 1) 建築文化週間事業として、シンポジウム「道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために一国指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として一」を開催した（開催日10/10、参加者101名）。
- 2) 北海道内の文化財建造物については、北海道教育委員会へ協力可能な委員のリストを提出し、道内市町村文化財審議会への委員協力の体制を整えた。
- 3) 旭川市総合庁舎の保存活用に関する要望書および見解づくりに対応した。
- 4) 昨年から一般公開が始まった小樽市の和光荘を見学するとともに所有者との懇談を行った。

◆ **北方系住宅専門委員会**（主査：谷口 尚弘君，委員数：13名，委員会開催数：2回）

本委員会は以下の活動を実施した。

- 1) 「北海道の住宅の歩み」パネル展及び「積雪寒冷地北海道の住まいの変化」講演会を北海道開拓の村との共催により実施した（平成27年5月）。また、パネル展を、室蘭工業大学（平成28年1月）及び北海道科学大学（平成27年11月）でも実施した。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会（2007年から継続的に実施、今年度で8回目）を札幌市手稲区にて開催した。
- 3) 「空きや時代の中古住宅の価値発掘と活用戦略」について建築計画専門委員会との協働にて実施した（平成28年2月）。
- 4) 本委員会は支部活動の活性化のために、縦糸だけではなく専門を越えた横糸も大切にという意識で設置され、実務の方々も多く活動に協力してきた。そこで、これまでの北方系住宅専門委員会の過去を知り、今と将来に向けた展望についての議論を実施した。

◆ **都市防災専門委員会**（主査：戸松 誠君，委員数：20名，委員会開催数：2回，通信委員会開催数：6回）

都市防災専門委員会では、第88回北海道支部研究発表会において特別企画「防災研究の成果と地域住民ニーズの接点～研究の深さと横の広がり～」を開催した。また10月31日に釧路市で開催された第6回くしろ安心住まいフェアにおいて建築文化週間事業「地震時の我が家のバーチャル体験」を出展し、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。また、本部災害委員会からの災害情報に関して、委員会内部に周知し情報の共有を図った。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

（2015年度より）

なし

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2015年度より)

◆寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究委員会（主査：森 太郎君，委員数：4名，委員会開催数：3回）

- 1) 2014年に北広島市で実施したアンケート調査の結果を日本建築学会北海道支部研究報告会，日本建築学会大会にて報告した。
- 2) 2015/8/4-5に美瑛町にてアンケート調査を実施した。（委員2名，アルバイト学生7名）
- 3) 「北方圏のまちづくり・エネルギー・木造建築に関する国際シンポジウム（主催；北海道大学大学院工学研究院建築環境学研究室，建築史意匠学研究室）」に於いて，上記の調査結果を報告した。
- 4) 2015/3/17-18に釧路市において公営住宅居住者を対象にアンケート調査を実施した。（委員1名，アルバイト学生1名）
- 5) 2015/3/18に釧路市の若年層を対象としたアンケート調査に関する打ち合わせを実施した。（委員1名，アルバイト学生1名）
- 6) 公開統計情報を用いた Fuel Poverty の実態把握方法について検討した。

3. 委託調査研究の受託

なし

4. 支部研究発表会の実施（主査：岡本 浩一君，実行委員会委員数：16名，委員会開催数6回）

4. 1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第88回研究発表会

日時：2015年6月27日（土）

場所：北海学園大学山鼻キャンパス（札幌市）

参加者数：約150名

4. 2 実行委員会委員

主査：岡本浩一（北海学園大学）

幹事：石橋達勇（北海学園大学）

委員：

構造専門委員会 / 大西直毅（北海道大学），鈴木邦康（釧路工業高等専門学校）

材料施工専門委員会 / 足立裕介（北海学園大学），三森敏司（釧路工業高等専門学校）

環境工学専門委員会 / 三浦誠（北海道職業能力開発大学校），森太郎（北海道大学）

建築計画専門委員会 / 馬場麻衣（北方建築総合研究所），野村理恵（北海道大学）

都市計画専門委員会 / 片山めぐみ（札幌市立大学），久保勝裕（北海道科学大学）

歴史意匠専門委員会 / 角哲（北海道大学），羽深久夫（札幌市立大学）

都市防災専門委員会 / 加藤雅也（釧路工業高等専門学校），中嶋唯貴（北海道大学）

北方系住宅専門委員会 / 高倉政寛（北方建築総合研究所），山崎正弘（MY建築設計支援室）

4. 3 実行委員会開催スケジュール

2014年12月末：建築雑誌会告入稿

2015年1月：第1回実行委員会メール審議，建築雑誌会告

2015年2月：第2～4回実行委員会メール審議，論文投稿用HP作成

2015年3月：論文原稿募集

2015年4月16日：論文投稿締切日

2015年4月24日：第5回実行委員会（プログラム編成）

2015年5月：プログラム校正

2015年6月中旬：CD発送

2015年6月27日：支部研究発表会
2015年6月下旬：第6回実行委員会メール審議

4. 4 研究発表会

論文題数：100編（A原稿：79編，B原稿：13編，C原稿：6編，D原稿：2編）
優秀講演奨励賞
構造：飯田彬斗（北海道大学），岡聖也（北海道電力（株））
材料：坂口朗央（室蘭工業大学）
環境：草間友花（室内気候研究所）
計画：新岡達矢（北海道大学），生越美咲（北海道大学），山崎嵩拓（北海道大学）
歴史：久米田和義（北海道職業能力開発大学校）

4. 5 特別企画

テーマ：防災研究の成果と地域住民ニーズの接点～研究の深さと横の広がり～
プログラム
主旨説明：都市防災専門委員会主査 戸松誠（北総研）
北海道支部の取り組み報告：北海道支部における防災体験学習の取り組み 南慎一（北総研）
パネルディスカッション
コーディネーター 中嶋唯貴（北海道大学）
・地域が求める防災研究とは
（工藤映美（学校法人香木学園大楽毛よしの幼稚園教頭）
（國田博之（北海道総務部危機管理局危機対策課職員））
・避難所運営ゲーム実践 森太郎（北海道大学）
・釧路地域での取り組み 草苺敏夫（釧路高専）
参加者数：72名

4. 6 技術パネル展（学術委員会主催）

昨年度（第87回）に構造専門委員会が会場を活用して実施した「技術パネル展」を学術委員会
が引き継ぐ形で企画・開催した。以下の①～⑧の団体組織から出展があった。発表会場にて昼休
みを中心とした展示解説、および懇親会にてパネル発表の時間枠を設け、盛会に終了した。

- ① ㈱北海道日建設計：「北見信用金庫 紋別支店」
- ② 北海道電力(株)＋北電興業(株)：「フライアッシュコンクリートの特徴と性能」
- ③ FSテクニカル(株)：「樹脂注入工法の新技術」
- ④ 大関化学工業(株)：「塗膜防水工法の新技術」
- ⑤ 北海道庁：「きた住まいる」
- ⑥ 発泡プラスチック断熱材連絡会：「構造用合板と発泡プラスチック断熱材を用いた耐震断熱改修工法」
- ⑦ 山本亜耕建築設計事務所：「発寒の家」、「澄川の家」ほか
- ⑧ 武部建設(株)：「民家再生」、「木組カーテンウォールによる鉄骨造の省エネ改修」

4. 7 懇親会

会場：北海学園大学工学部生協食堂（札幌市中央区南26条西11丁目1-1）
会費：一般=4,000円，学生=2,000円
参加者数：76名（一般：54名，学生22名）

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

- (1) 北海道建築賞委員会（主査：山田 深君 委員7名 委員会開催数3回現地審査3回）

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建てられた建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・奨励賞に相応しい作品を選考しており、2015年度で節目となる40回目となった。選考においては、作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点を基本的な評価軸としている。

今年度は、4月15日（水）の応募開始から10月30日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第40回北海道建築賞を実施した。

5月7日（木）：第1回委員会 審査方法・スケジュール等の確認、応募状況の確認および応募推薦作品の選定。

5月28日（木）：第2回委員会 応募16作品が審査対象作品となることを確認。書類審査によって現地審査対象作品として4作品を選定。

6月28日（日）：第1回現地審査 「中の沢川の家」（札幌市）、「籤 HIGO」（札幌市）

8月22日（土）：第2回現地審査 「呼人の家 -KIRAKUBO-」（網走市）

8月23日（日）：第3回現地審査 「TOKACHI HILLS」（幕別町）

8月28日（金）：第3回委員会 現地審査を踏まえて最終選考を行い、以下の結果となった。

・北海道建築賞 「籤 HIGO」（中山眞琴君/（株）nA ナカヤマアーキテクト、山脇克彦君/元（株）北海道日建設計）

・北海道建築奨励賞 「中の沢川の家」（山田良君/札幌市立大学デザイン学部）

10月30日（金）：表彰式・受賞記念講演会および記念パネルディスカッション。北海道大学遠友学舎にて開催。建築文化週間の行事でもあり、一般市民も含め、学生、大学関係者、建築業界関係者など約80人が参加。

審査員：

主 査：山田 深君

委 員：赤坂 真一郎君、小篠 隆生君、海藤 裕司君、斉藤 利明君、佐藤 孝君、
福島 明君

（2）受賞者

◆北海道建築賞

中山 眞琴君（（株）nA ナカヤマアーキテクト）

山脇 克彦君（元（株）北海道日建設計）

作品名—「籤 HIGO」の設計

◆北海道建築奨励賞

山田 良君（札幌市立大学）

作品名—「中の沢川の家」の設計

（3）審査経緯

本年度の北海道建築賞委員会は第40回というひとつの節目を迎え、主査および4名の委員を入れ替えた新たな体制となった。第1回委員会（5月7日開催）では、新たな委員も加わったことから、表彰規程や審査日程など本委員会の全体を入念に確認した上で、応募作品に対する審査方法を審議した。また、この時点での応募作品に加えて、「北海道建築作品発表会作品集2014」等の情報をもとに、今年度の審査対象になり得るような注目すべき作品について議論した。ここで挙げた作品の中から、委員会からの応募推薦対象作品として5作品を選定し、各設計者に応募についての検討を依頼することとした。

応募作品の出揃った第2回委員会（5月28日開催）では、応募推薦対象作品の中から実際に応募された3作品を含む以下の計16作品を、今年度の審査対象とすることを確認した。なお従来通り、応募作品の中にそれに関わった委員がいる場合には、その委員は当該作品の審査に一切関与しないこととした。

応募作品および設計者（応募順）

①和琴フィールドハウス（川上雅彦君、宮越達也君/北電総合設計株式会社）

②おひとりさまの家（加藤幸恵君/（株）N.K 建築設計室）

③中の沢川の家（山田良君/札幌市立大学デザイン学部）

- ④スズキアリーナ新しくしろ（柳沢明彦君/株式会社スミカー級建築士事務所）
- ⑤北海道ガス札幌東ビル 技術開発・研修センター（水越英一郎君、海藤裕司君、藤本昌也君/株式会社山下設計）
- ⑥家族7人30坪の家（ヨシダオサム君/Atelier Monogoto 一級建築士事務所）
- ⑦家の手前、家の奥（小林光輝君/小林商会設計部）
- ⑧籤 HIGO（中山眞琴君、藤田麻由子君、山脇克彦君、小谷卓司君/（株）nA ナカヤマアーキテクト、（株）ナカヤマアーキテクト、元（株）北海道日建設計、（株）北海道日建設計）
- ⑨北海道薬科大学共用講義棟（A棟）、北海道薬科大学研究棟（B棟）、北海道科学大学保健医療学部棟（C棟）（上甲孝君、鈴木彰信君、西尾吉貴君/大成建設株式会社一級建築士事務所）
- ⑩余市 OcciGabi ワイナリー（白鳥健二君、白鳥悦子君/有限会社アトリエ COSMOS）
- ⑪ゆいま〜る厚沢部（瀬戸健似君、近藤創順君/株式会社プラスニューオフィス）
- ⑫呼人の家 -KIRAKUBO-（堀尾浩君、篠原航太君、長谷川大輔君/堀尾浩建築設計事務所、株式会社長谷川大輔構造計画）
- ⑬北見信用金庫紋別支店（菅原秀見君、大門浩之君、小林隆行君/株式会社北海道日建設計）
- ⑭恵庭市黄金ふれあいセンター（瀬戸口剛君、中原茂人君、小倉寛征君/北海道大学大学院工学研究院都市地域デザイン学研究室、株式会社渡辺建築設計、Sa design office 一級建築士事務所）
- ⑮TOKACHI HILLS（灘本幸子君/株式会社灘本幸子建築設計事務所）
- ⑯Terrazze（皆川拓君、新井秀成君/株式会社 AE5 partners）

これらの応募作品に対し、今年度の北海道建築賞においても継続して「先進性」「規範性」「洗練度」の3項目を基本的な評価軸とすることを確認した上で、第一次審査として応募書類による現地審査対象の選考を行った。各委員が個別評価を述べた後に、各作品について活発な議論が為され、現地審査対象作品として、③「中の沢川の家」、⑧「籤 HIGO」、⑫「呼人の家 -KIRAKUBO-」、⑮「TOKACHI HILLS」の4作品を選定した。応募作品数に対して現地審査対象作品数が、例年と比較して少ない結果となったが、次点となる数作品を現地審査対象とするかどうかについては入念に議論した上で、特に評価の高かった上記4作品に絞って現地審査を行うこととした。

現地審査は、7名の委員全員出席のもと、6月28日に③と⑧、8月22日に⑫、8月23日に⑮の日程で行われた。現地においては、それぞれ設計者本人からの説明に加えて、質疑を通じて各作品を詳細に把握することができた。さらに、周辺環境との関係性や空間の質感、あるいは竣工後の使われ方等々に至るまで、各作品の思考されている密度や設計の完成度などを確認することができた。

第3回の委員会（8月28日開催）では、現地審査を行った4作品を対象として、最終選考を行った。選考方法を再度確認した上で、まず各委員が4作品それぞれについての評価を述べた。この時点で高い評価の得られなかった⑮「TOKACHI HILLS」は、賞の対象から外すこととした。全体として高い評価を得た③⑧⑫の3作品については、個別に活発な議論が為され、最終的に北海道建築賞に⑧「籤 HIGO」、北海道建築奨励賞に③「中の沢川の家」とすることを、委員全員の同意のもとで決定した。⑫「呼人の家 -KIRAKUBO-」も高い評価であったが、後に触れる事由により今回は賞の対象外とした。

「籤 HIGO」は、建築の構造材と家具というふたつの枠組みの狭間において、全体が構想された建築である。多くの書棚や什器に囲まれる建築設計事務所の一般的な空間特性を見越して、鉄骨の構造材と家具とを一体的に解いて建築化している。スチール無垢材の60mm角柱を基本としたその空間は、構成自体はオーソドックスなものであるものの、構造材/家具という従来のヒエラルキーに対して、確かに「そのどちらでもあるような」独特な質感をつくり出している。また、鉄骨の扱いのみならず、様々な素材や細部に至るまで、説得力のあるものになっている。意匠側の作者がこれまでに蓄積してきた空間の演出手法が、ここでは構

造材あるいは構造的合理性を介在することによって、単なる表層的水準に留まらない建築の表現となり得た。その意味において、意匠設計者と構造設計者とが協同することで初めて可能となった質の高い作品であると認め、意匠および構造における統括責任者二名を北海道建築賞受賞とするものである。

「中の沢川の家」は、「籤 HIGO」とは対照的に、空間の完成度というよりは‘住まいながら状況に応じて作り込む’ことが目指された、住み手の生活に対する想像力が強く試されるような住宅である。横長のジャングルジムのように 1800mm グリッドに柱が露出した空間は、一見すると建築的な操作が乏しいようにも思われるが、特に2階の梁上部の‘余剰空間’は、住まい手でもある作者とその家族の想像力を自由に生み出す場となっているようである。事実、子供たちは既にそこを‘わが場所’としており、住宅という枠組みを超えた奔放なアクティビティに対応した魅力的な工作物が現れつつある。手探りのディテールやローコストの材料等に寄りながら、様式的な洗練に向かうのとは逆に、日々生活することのゆたかな価値に気づかせてくれるような優れた試みであるといえる。

現地審査を経て、残念ながら対象外となった2作品についても以下の通り総評を述べる。

「呼人の家 -KIRAKUBO-」は、網走湖を望む白樺林に覆われた斜面という敷地条件をよく読み込みながら、それとの対応において、空間を繊細に叙情的に紡ぎ出そうとしている。敷地高低差に沿ってスキップした空間は、階段を上り下りすることによって、慎重に開けられた開口部を通じて、異なった外部を感じ取ることができる。柔らかく曲面を描く天井面は、光の繊細な濃淡を、部屋から部屋へと柔らかく送り届けている。スケールや素材の選定、あるいは開口部等も抑制されて、全体に渡ってよくコントロールされており、スキップフロア・屋根形状等による「空間構成」と、光や景色等による「空間の質感」とが、幸福に融合した作品であるといえる。作者のこれまでの作品にみられたような温熱環境的な原理は、ここでは創作における主調というよりは、「空間の表情」を創り出す上でのさりげない前提のようなものへと変化しているように見える。作者も恐らくはそのことに意識的であり、その新たな方向性の萌芽をここに見ることができる。一方で、土間を含む半外部空間については、空間相互の関係性や素材の扱い方に若干の疑問も呈されたことなどから、優れた佳品であることは間違いないが、最高賞の対象としては難しいという判断に至った。全体として高い評価を受けながらも、作者は既に本賞受賞経験者でもあることから、新たな方法論での今後の展開と完成を期待する意味においても、あえて今回は賞の対象から見送ることとした。

「TOKACHI HILLS」は、もともと温室であった建物を、植物園入口を兼ねた土産物販売・カフェとしてリノベーションしたものである。3つのプログラムに対応する空間と客動線のコントロールなど、ここでの空間的操作は基本的に全て床面（土+植栽）だけで行われている。温室であったために、元々が地面であったことを逆手に取って、植栽の植わった「外部」に対して、必要などころを Pave するという考え方自体は興味深いものである。一方で、この基本的な考え方に対して、実際の使われ方や外構の取り扱いなどには齟齬が見受けられた。商品や什器類が増えていった時に、この空間がどのように対応していくのか、クライアントも含めてそのあたりの検討と理解が必要であったように思われる。

(文責：山田 深)

(4) 審査講評

◆ 北海道建築賞 「籤 HIGO」

この建築は、良好な住宅街の中に建っている、オフィス、ギャラリーと店舗を組み合わせたコンプレックスである。ファサードは、意匠設計者の従来の風景を切り取るような孤高の雰囲気醸し出す作風とは違い、特異な存在感を与えることなく、以前からそこに佇んでいたかのように建っている。

籤 HIGO という作品の名の通り、細いストラクチャーに包まれた建築である。最大の特徴は、構造材が 50 mm角、60 mm角などの鋼製無垢材で構成されている点である。それらは構造体でありながら、本棚、家具や仕上となり、構造と仕上の区別が無い。特に建物の4周を囲んでいる本棚

は、地震力と風圧力を負担し、構造体と仕上、家具、建具が全くもって一体化している。この本棚は、設計者の仕事のプロセスやアウトプットとしての結果である膨大な書類と蔵書を建築化しようという試みであり、それが見事に結実している。

建築は大概、フレームとも言うべきストラクチャーが基本となり空間を構成していくが、この作品は、ストラクチャーと言いながら、その基本である柱と梁の実態を全く見せない建築になっている。と言うより、その構成されている部材が、籐のように細いが故に、その実態を全く感じさせない、概念的な捉え方の建築になっている。

更にこの空間は、意匠設計者と構造設計者の協働と試行錯誤の繰り返し、会話と議論、葛藤と協調など様々なドラマティックな展開が繰り返されたであろうことは想像に尽きない。この空間は、両者の互いの命題と課題解決の「対話」が無かったら生み出されなかった。昨今のデジタル化された建築・設計行為は、「ディテール」にまで立ち返り、工場や職人の生産レベルにまで達する純粋な議論が無いままに建ってしまう事が多い。その状況下にあって、あえてそのプロセスに立ち返り、建築を作り出したことにこの作品の意義がある。本来、設計とは、その土地やユーザーの状況から、求められる様々な条件をクリアし、建築によって最良の問題解決方法を提示し、更なる発展的な付加価値を与えることである。その建築を構成するものが、細部に渡る「ディテール」であるということ再認識させる作品である。

その「ディテール」で目を見張るのが、鉄、木、ガラス、コンクリートという現代建築の必須部材の素材をそのまま活かしながら、再生品であるコルクブロックとの融合を図り、最小の部材で良質な空間を構成している点である。コルクブロックは内装材や外装材に、断熱材、吸音材にもなり、そして構造体への荷重負荷軽減の役割も担っている。この構造体から建築全体までが連続と繋がる構成は、まさしく、意匠設計者と構造設計者の「対話」から生まれた建築であることを表している。

この空間をオフィス空間として捉えた時、昨今の知的生産性の向上は、ICT 社会の中にあっさえ、アナログ的な「対話」から生まれるという重要性を体現している。この空間の中には様々な形でスチール躯体と繋がった家具があり、ワーカー同士の距離を適度にコントロールしながら、視線の見え隠れによる空気感の伝わりさえも「対話」として捉えている。この「対話」と「ディテール」の追及により、意匠設計者、構造設計者が本来あるべき建築行為を行い、新たな空間を作り出したこの作品を高く評価したい。

(文責：海藤 裕司)

◆ 北海道建築奨励賞 「中の沢川の家」

札幌の南部、砥石山を源流とする中ノ沢川に沿った傾斜地に住宅街が広がっている。その中でも特に勾配がきつく、川面からせり上がった北斜面の上に木色のボックスが佇んでいた。

東西端でおおよそ2mの高低差がある敷地で、地盤形状を変えず、かつ既存樹木を残すよう配置された3×8間の木箱は無塗装の貫材で覆われ、サッシュや建具は全て既製品が使われている。こうした安価な材料で構成された気張らない外観は、下見板張りの単純な形態と相俟ってか、ローコストに徹した潔さと同時に力強い佇まいを獲得している。

建物内部全体に、柱が1820ミリ間隔でグリッド状に配置されており、一見強い形式性を感じる構成となっているが、通路的な土間空間を中心とするプライベートエリアが広がる1階は、薄壁の位置や自然光の量、機能配置が巧みにコントロールされ、柱の存在はほとんど意識されない程度に抑えられている。

翻って2階はトリプルガラスの水平窓から射し込む自然光で満たされた天井高4mを超える大きなワンルーム空間となっており、1階から連続するグリッド状の柱に同じ径の梁が掛かることで、汎用サイズの木材による立体格子が実現されている。

菊竹清訓のスカイハウスで外部スラブ下に吊り下げられた子供のためのムーブネットは、ここでは「インナー・ツリーハウス」として内部の構造材に「引っ掛かって」いる。設計者は、将来にわたり住み手自らが屋内建屋（インナー・ツリーハウス）を追加、あるいは撤去し、ライフスタイルの変化に合わせ変わり続ける「完成しない建築」を夢見ているという。このシンプルな箱型の住宅内において、ツリーハウスが様々な位置に取り付けられ、そこを子供たちが上下し、梁の上を歩くとき、そこはまさしくツリーが並ぶ森のような場となるであろう（現地審査時には既にそうなりつつあった）。

冬の長い北海道において断熱された大空間を確保し、生活や興味の変化に合わせ間仕切や家具を自由に動かす提案はこれまでもされてきた。しかしこの住宅おける「インナー・ツリーハウス」は、立体格子の中でその形式に囚われず自由な位置、自由な高さ、自由なサイズで存在している。周辺との有機的関係性。それはまさに本来のツリーハウスの魅力であり、そうした楽しみ方を可能にしたこの住宅は、北海道のような積雪寒冷地における「屋内新陳代謝」の実験場になり得るだろう。

その可能性と今後の展開を担保するのは、住宅内部に森を取り込んだとも言える巧みな空間構成と、内外の条件をあるがままに受け入れ、最小の操作でささやかな気付きの場を生み出してきた美術家としての活動に通底する、設計者の静かな然し強い意志であろう。

(文責：赤坂真一郎)

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催数：1回）

2015年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞2点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点、を「工業高校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主査：菅原 秀見君

委員：遠藤謙一良君，小倉 寛征君，小西 彦仁君，齊藤 文彦君，中山 眞琴君

(2) 受賞者

◆ 大学の部（応募作品数：13点）

- ・金賞 河中宗一郎君：北海学園大学工学部建築学科
作品名 — 湖水の景
- ・銀賞 南 嗣美君：北海道科学大学空間創造部建築学科
作品名 — 国立国会図書館
- ・銅賞 青葉 桜君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 中心紋
- ・銅賞 樫村 圭亮君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 残沼の址

◆ 短大・高専・専門学校の部（応募作品数：5点）

- ・金賞 佐藤 夏菜君：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — Time axes～時間軸がおりなすストーリー～
- ・銀賞 千葉 優弥君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 — ホームレスによるホームレスのためのホームレス住宅
- ・銅賞 菊地 留花君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 — こどものむら

◆ 工業高校の部（応募作品数：6点）

- ・金賞 目黒 海都君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
阿部 悠佑君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
作品名 — 立ち上がれ 名寄二條市場
- ・銀賞 山内 翔馬君：北海道旭川工業高等学校建築科

- 作品名 — 北彩都美術館
・銅賞 黒川 沙彩君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — 函館和洋亭

(3) 審査講評

◆大学の部

金賞・河中 宗一朗君

人工的に出来たダム湖の自然体である水に人工物である建築を存在させ、人口的な水位によって自然と変位する建築の姿が出現する。

幾重にも人工と自然のフィルターが錯綜し融解する美しい作品である。

現実的でないファシリティや建築的バランスを除き、ほぼ完璧な作品と言える。

情景的なこの作品は、人工と自然との境界線を問題提起した作品と私は捉えた。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・南 嗣美君

二元対比の原理はこの地球上では必然とも言える。この世の中の全てがこれで成り立っているといっても過言ではない。

この設計は垂直と水平の二元により空間化したものであり、それを図書による書架（垂直）と床（水平）で構成していく。一年間に図書受入された本の数を12等分に分け塔状に積層する、それを100年分100塔（棟）になると次の郡に分ける。毎年の蔵書量には増減がありそれが建築の塔の高さを変え、さらに12等分され階高も変化する。

規律的建築要素が不規律になり隣立する塔の変化は生物的で敷地である原始林の森に新たな風景を弛まらず作り続けることだろう、そして自然と建築の二元対比がより互いを際立たせる端整で美しい作品である。さらに建築が増殖していくときの原始林との関係を解いてほしかった。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・青葉 桜君

札幌中心部、グリッド街区の内側となる空間を周辺の既存建築の柱、梁の構造を延長するように空間化し、そこに作者の定義する新たな劇場を挿入する提案である。グリッド街区のもつ良さを活かしながら、新しい空間と機能を付加して行く、ある意味都市のリノベーションとも捉えられる作品である。

グリッド街区の裏であった内側が都市の表となる。表と裏が「反転」された街区の影響は、その内部から外部へ、さらには周辺街区へと波紋のように広がり、日常と非日常の境界を曖昧なものにして行く。都市の現状、既存のビルディングタイプに飽き足りない作者の強い思いが感じられる提案である。

しかし、限られた枚数のプレゼンテーションからはその空間の魅力が読み取り難く、また劇場の定義や活動イメージが十分に説明出来ていないのが残念である。

以上を考慮し銅賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 征寛)

銅賞・樫村 圭亮君

かつて日本最大であった石狩湿地に存在した親子沼が、農業開拓により50年位の中で消滅しつつある。

この計画はかつての沼の環境再生を目指し、敷地の水脈を観察し、土木技術による止水を行い長い時間の中で自然の再生と生態を体感できる場所の計画である。長い時間の中で自然の再生と生態を体感できる施設は木フレームや床、壁、開口、屋根とプリミティブに慎重に構成される事でより明確に自然を感じられる。長い時間の中で施設は自然の再生と共に水の中に消滅し、かつての風景が建築の力で再生する自然科学の大きな視点から建築に結びついた想像力を高く評価したい。

(文責：遠藤 謙一良)

◆ 短大・高専・専門学校の一部

金賞・佐藤 夏菜君

根室市の市街地に建つこどもと老人のための施設である。既存の中学校に隣接して計画され幅広い世代の交流を意図している。建築は一つ屋根の下にスケールの小さい壁によりアクティビティの場を与えられ、廊下のない有機的に連続する空間が魅力的である。多世代交流は新鮮なテーマではないが、アクティビティについて具体的に考察され提案されているところが建築に命を吹き込んでいる。隣接する中学校との関係についても1歩踏み込んでほしかったが、金賞に値する魅力のある作品であると評価した。

(文責：菅原 秀見)

銀賞・千葉 優弥君

社会と距離を置くホームレスに社会復帰のきっかけとなる居場所を提案した作品である。木と段ボールなどの材料を自らが選択し、居場所を建設し、生活する空間である。ここでの生活は、社会復帰へのきっかけとなり、次の利用者に引き継がれる。支援する仕組み(NPO)が必要ではあるが、その発想は、社会資本としてではなく建築をフローとすることで成立している。自由ではあるが、その共通のインフラをシステムの成立の条件としている。その密度については、議論の余地があるかもしれないが、可変な建築空間とまとめ上げた点で優れており、銀賞に相応しいと判断されたものである

(文責：齋藤 文彦)

銅賞・菊地 留花君

こどもの世界にどっぷりと浸った時に、こんなファンタジーな建築の世界が描かれるのだろう。

時間割もきっちりと考えられていてとても楽しそうだ。

建築というよりアイデアの方に票が集まった。

残念だったのは広場の使い方や形や配置方法が明記されていないので、「なんとなく」感が拭えなかった。

図面表現やデザインは、本当にこども達のために思った強い意志が十分に伝わった楽しい作品と言える。

(文責：中山 眞琴)

◆ 工業高校の一部

金賞・目黒 海都君, 阿部 悠佑君

名寄への「思い」と「情熱」が強く感じられる作品である。

関係者への丁寧なヒアリングから賑わいを失った市場の抱える課題を発見し解決のための方針を提示。現地調査により既存建築の良さを損なわずに賑わいを取り戻すリノベーション案を提案している。

在来木造の構造補強やデザインコードの踏襲により、提案された建築空間に奇抜さや派手さはない。しかし、それがかえって地方都市のおかれたリアルな姿に寄り添う建築だと感じられる。

既存の建築が持つ制約を見事に新たな空間の魅力に繋げた作品だと言える。

一見すると魅力がなくなった都市ストックの中に新たな可能性を見出すこと。それを積極的に活用してゆく姿勢に地方都市の希望を見た気がする。

(文責：小倉 寛征)

銀賞・山内 翔馬君

旭川駅周辺の再開発地区に計画された美術館である。市の中心部でアクセスの良さを考え一般市民はじめ高齢者や子供そして観光客の利用には最適な場所である。

空間は天井高さの変化やスキップフロア等の操作により変化にとぶ、そしておおらかな空間

が予想される。その構成は外部の形態にも影響を与え、凹凸の多い外観は来館者の空間への期待を増幅させるだろう。アプローチの街灯や建物を一部池に乗せるなど更に建築を際立たせる操作は効果的である。これからの作者の将来が楽しみな秀作であった。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・黒川 沙彩君

函館の歴史的建築物を利用し、旅館として再生する計画である。外観を生かし、客室内部も和洋室がさまざまな形で構成され、統一された景観に変化のある空間を組み合わせたプランは施設全体の魅力を高めている。函館の街並形成で最も大切な歴史的建築物を時代が求める用途に変更し、外観を極力保存する事は、豊かで魅力あるこれからの街づくりにとって、最も大切な事の1つであり、施設と街が共に良くなる視点と計画を評価したい。

(文責：遠藤 謙一良)

5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2015年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

関 あきり君・大内京太郎君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
木戸 裕章君・遠藤 峻輔君：北海学園大学工学部建築学科
鷺野 夏実君・竹腰 悠加君：北海道科学大学空間創造学部建築学科
榎本 奈奈君・岸本 豪太君：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
廣川依寿美君・五十嵐礼奈君：東海大学国際文化学部デザイン文化学科
対馬 充昭君・菅野 雅樹君：道都大学美術学部建築学科
和平 実来君・佐藤みずき君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース
江口 悠貴君・菊地 留花君：釧路工業高等専門学校建築学科
佐藤 圭吾君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
西澤 天汰君：北海道職業能力開発大学校建築科
岡崎航一郎君：北海道札幌工業高等学校建築科
大島 里昌君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
齊藤那奈美君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
太田 建一君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
斉藤 夏海君：北海道函館工業高等学校建築科
齊藤 若那君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
武田 泰我君：北海道旭川工業高等学校建築科
沓澤 輝夢君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
白鳥 聖也君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
浪岡 茜君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
八木沼聖二君：北海道帯広工業高等学校建築科
工藤 宙斗君：北海道釧路工業高等学校建築科
目黒 海都君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
外崎 海渡君：北海道室蘭工業高等学校建築科
安田 一貴君：北海道留萌千望高等学校建築科
浅田 大輝君：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。

2015年度は、該当する法人・賛助会員等はなかったが、今後も引き続き表彰する予定である。

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

- (1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：斉藤 雅也君，委員数：14名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計14名

(2)受賞者

◆北海道支部技術賞

三菱電機株式会社

佐藤 務君

加藤 芽美君

三菱電機エンジニアリング株式会社

大島 光生君

山下 哲央君

メルコファシリティーズ株式会社

湊山 茂宏君

表彰技術名一 寒冷地における高断熱住宅に適合した汎用標準品ヒートポンプ
エアコン1台によるダクト式暖冷房換気技術

◆北海道支部技術賞

大成建設株式会社

豊原 範之君

山口 亮君

安田 孝君

新田 隆雄君

北海道大学

井上 義之君

羽山 広文君

表彰技術名一 外気冷房型データセンターの構築技術の開発と運用実績の検証
「さくらインターネット石狩データセンター」

(3)審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて，支部技術賞選考委員会を構成する委員の確認をした後，委員会を計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では，応募のあった下記3件（応募順・技術名のみ記載）の内容について協議した。

- (a) 寒冷地における高断熱住宅に適合した汎用標準品ヒートポンプ
エアコン1台によるダクト式暖冷房換気技術
- (b) 外気冷房型データセンターの構築技術の開発と運用実績の検証
「さくらインターネット石狩データセンター」
- (c) 地下鉄コンコース内における広場空間の形成

以上 3 件について、選考部会で技術内容を把握した。特に選考委員の追加は行わずに選考を進めることとした。その際、表彰技術候補の選考方法は、募集要領の選考基準を「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点から考慮して各委員の 3 段階評価による採決の後、協議によって決定することとした。

2 回目の選考委員会において、協議・採決の結果、上記 (a) および (b) の 2 件を表彰候補技術候補として選定した。選定理由は以下の通りである。

(a) 寒冷地における高断熱住宅に適合した汎用標準品ヒートポンプエアコン 1 台によるダクト式暖冷房換気技術は、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点で優れた技術と評価された。北海道では高断熱・高气密住宅の開発・普及が強く推進され、最近の超高断熱住宅では熱源の種類を問わない段階にまで成熟したと言える。本技術は、エアコン一台によって暖冷房・換気を行なうダクト一体型空調システムを提案するもので、省エネルギー性、快適性に加えて、限られた住宅の省スペース化にも寄与する技術であると言える。

(b) 外気冷房型データセンターの構築技術の開発と運用実績の検証「さくらインターネット石狩データセンター」は、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」3 つの観点で特に優れた技術と評価された。具体的には、高発熱なデータセンターの冷房負荷削減のために、北海道の冷涼な気候を活用した外気冷房システムを提案するもので、建築意匠と設備のインテグレートによる省エネルギー化手法、省スペース化手法とその運用実績が高く評価された。

選外の (c) 地下鉄コンコース内における広場空間の形成 についても評価する意見があり、選考委員会で協議を重ねたが、上記 (a) および (b) に及ばなかった。

技術賞選考委員会より、上記 (a) および (b) を表彰技術候補として支部役員会に報告・審議した結果、2015 年度 日本建築学会北海道支部技術賞として表彰することが決まった。

(文責：齊藤 雅也)

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会 (主査：米田 浩志君、委員数：3 名、実行委員数：11 名、委員会開催数：5 回 (実行委員会 4 回を含む))

2015 年 11 月 20 日の発表会に向けて第 35 回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。3 名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は 1 回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員 8 名が加わった実行委員会は 4 回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第 35 回建築作品発表会作品集 VOL-35 を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2015 に実行委員の佐藤孝氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2016/2 月号に米田浩志が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第35回建築作品発表会の報告

期日：2015 年 11 月 20 日 (金曜日)

会場：北海道立近代美術館講堂

発表作品数：30 作品

35 回目を迎える北海道建築作品発表会は、2015 年 11 月 20 日 (金曜日) に開催された。会場は、北海道立近代美術館講堂、参加者総数は約 300 人であった。1981 年に第 1 回目をスタートさせたこの発表会は、回数を重ねるごとに発表の内容や議論の内容が厚みを増してきていると言える。今年の発表会においても質の高い建築作品が多く発表された。この場合は、発表する建築家を中心に建築関係者、建築学生、一般市民を巻き込みながら建築文化の向上に寄与してきた。今回の作

品発表会は、発表題数が 30 題(複数発表も含めると合計 38 作品)であった。発表会の歴史においては平均的な数とも言えるが、ここ数年間の発表数に比較すると多めの作品総数であった。また、作品の数に比例するように建築の用途が多様な広がりを持っていた。今年の発表会のプログラムも例年通り三部構成で、1 部と 2 部は各作品のスライドを交えた口頭発表、そして 3 部はフォーラムとして位置付け全体の作品を集約し意見交換を行った。このフォーラムは、作品発表会において特に重要な目的性を有しており、作品の規模や用途を越えた共通点等を見出すことができる貴重な建築批評の場になっている。毎年このフォーラムがあることよって、全体を通した建築作品の動向が顕在化され、そして発表者とオーディエンスとの間に対話が生まれる。作品発表会は、北海道の建築シーンにおいて極めて意義深いステージであると改めて強調することができる。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系 5 委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系 5 委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物や HP で公表されている。また、建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品の HP 掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：小澤 丈夫君，担当常議員，委員会開催数 1 回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

日本建築家協会北海道支部との連携に関しては、合同委員会（1 回）を開催して、両団体の活動に関する情報交換を行った。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，幹事：斉藤 雅也君，委員数：4 名，メール等による情報交換を数回実施）

2015 年度は以下を実施した。

- 1) 役員会、事務局等の要請に応じて掲載内容の更新作業を行なった。
- 2) 委員間でメール会議を実施した（数回）。
- 3) ホームページの全面更新を行った。
- 4) 委員会規定の見直しを行った。
- 5) Facebook ページを立ち上げた

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

(1) 本部主催講習会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2015. 8. 7	2015 年度支部共通事業 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」改定講習会	北海道建設会館	名和 豊春 他 3 名	88 名

(2) 支部委員会主催講習会 (セミナー)

該当なし

8. 2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2015. 6. 27	支部研究発表会特別企画「防災研究の成果と地域住民ニーズの接点～研究の深さと横の広がり～」	北海学園大学	戸松 誠 他6名	72名
10. 30	建築文化週間「第40回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	北海道大学遠友学舎	中山 眞琴 他2名	約80名
11. 20	第35回北海道建築作品発表会	北海道立近代美術館大講堂	作品数30点	約300名
2016. 3. 15	まちづくりはひと	北海道室蘭工業高等学校	岡本 浩一	32名
3. 14	建築構造を裏づける科学	北海道苫小牧工業高等学校	岡崎太一郎	40名
3. 17	農業、漁業施設の室内環境とエネルギー	北海道名寄産業高等学校	立松 宏一	47名

(3) 支部委員会主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2015. 5. 10 (パネル展示 4. 25～5. 24)	「北海道の住宅の歩み」講演会及びパネル展 (北方系住宅専門委員会)	北海道開拓記念館	小林 孝二 他1名	33名
7. 3	菊地優先生「2015年日本建築学会賞(論文)」受賞記念講演会 (構造専門委員会)	京王プラザホテル札幌	菊地 優	126名
7. 9	構造デザインとエンジニアリング～鉄骨造の可能性～ (構造専門委員会)	北海道大学 B1 棟 B32	山脇 克彦	109名
10. 10	建築文化週間「道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために―国指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として」(歴史意匠専門委員会)	札幌市立大学サテライトキャンパス	木村 勉 他9名	101名
10. 31	建築文化週間「地震時の我が家のバーチャル体験」 (都市防災専門委員会)	釧路市こども遊学館	委員会委員	133名
11. 10	建築構造設計とその周辺に今求められていること―BIM・FET・NSmos― (構造専門委員会)	北海道大学 B1 棟 B31	鳥井 信吾	77名

2. 6	公開研究会「空き家時代の中古住宅の価値発掘と活用戦略」 (建築計画専門委員会)	北海道大学学術 交流会館小講堂	石塚 雅明 他 4 名	124 名
3. 10	第10回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs15 (環境工学専門委員会)	札幌市立大学サ テライトキャン パス	発表題数 27 題	70 名

8. 3 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2015. 7. 30	「北海道電力苫東厚真発電所」見学会	現場担当者	7 名	材料施工専門委員会
11. 14	「2015 これからの住まいと暮らしを考える住宅見学会」	大杉 崇	12 名	北方系住宅専門委員会 環境工学専門委員会 建築計画専門委員会
2016. 1. 21	「札幌医科大学教育研究施設 I 改築工事」見学会	現場担当者	16 名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
2. 17	「北海道札幌視覚支援学校」見学会	施設担当者	5 名	建築計画専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名称	会場	参加者数
2015. 5. 13~15 6. 12~14 11. 16~19	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	152 名 140 名 100 名
7. 8~ 11. 20	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 375 名

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2015 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会 (主査：川人 洋志君, 委員数：5 名, 委員会開催数：1 回)

支部審査員：

主 査： 川人 洋志君

委 員： 赤坂 真一郎君, 小西 彦仁君, 山田 良君, 山之内 裕一君

(2) 審査講評

委員会活動として設計競技審査会を 2015 年 7 月 13 日、午後 3 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「もう一つのまち・もう一つの建築」であり、6 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な討議を経て 2 案を支部入選案として決定した。応募案のなかには、道外からの応募もあったが、入選案 2 案のうち 1 案は、道外からの応募であった。支部入選案 2 案は、残念ながら全国審査で入選を果たせなかった。今後の進展を期待したい。

2015 年度支部共通設計競技「もう一つのまち・もう一つの建築」審査評

設計競技審査会を 2015 年 7 月 13 日、午後 3 時 00 分より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「もう一つのまち・もう一つの建築」

であり、6案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て2案を支部入選案として決定した。支部入選案2案は、残念ながら全国審査で入選を果たせなかった。今後の進展を期待したい。以下に支部入選作2案の審査評を記す。

「揺らぐ縮尺、縮む方位」
庄野航平（早稲田大学大学院）案

敷地はダム建設により、湖の底に閉じ込められてしまったアイヌ民族の聖地「二風谷」。提案はアイヌの人々が持つ民俗様式、空間把握方法を手法化し、限りなく自然に近い境界を持つ共生風景を創出しようとするものである。アイヌ民族の世界観や技術などを入念にリサーチしたうえで、設計者がそれを咀嚼し再構築するという堅実かつ丁寧なプロセスを積み重ね、現在日本が持ち得なかった豊かな風景、建築、そしてまちを生み出そうとする強い意欲に心惹かれた。

（文責：赤坂真一郎）

「端の輪」
塚越竜也・王ハンユ・桂田啓祐*・櫻井太貴*・竹内香澄*（室蘭工業大学大学院 室蘭工業大学*）案

北海道日本海沿岸には明治期ニシン漁で栄えた集落が数多く点在している。それらは、険しい断崖で閉ざされ陸の孤島と呼ばれていた。計画対象地の増毛町は、そうした集落のひとつである。大正期鉄道終点駅ができ、街の人びとと自然が調和し、この土地固有の歴史的な街並み風景が継承されていた。しかしおよそ50年前に陸路を貫く国道が開通し街が激変する。提案は、国道開通でニュートラル化する街を批判、かつての街の風景を取り戻すべきとした。そのため雁木建築をループ状に配し、街と人の交感装置とし、歩行者の五感でのコミュニケーションを誘発させ、コンパクト化による街の再構成と再発見を目指す。その直截さゆえの強度ある構想力を評価した。

（文責：山之内裕一）

9. 2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：山田 良君：委員数6名：委員会開催数2回及び現地審査）

2015年度応募数7作品に対して、応募書類による選考の結果6作品が現地審査対象作品に該当すると判断した。5日間に渡る現地調査並びに2回に渡る選考委員会を開催し、本部にて決定された支部推薦枠の3作品を選考し本部へ推薦した。

支部審査員：

主査：山田 良君

委員：加藤 誠君、斉藤 雅也君、田川 正毅君、西村康志郎君、堀尾 浩君

（2）作品選集支部選考の結果

北海道支部応募作品数7点

支部選考通過（本部へ推薦）作品数3点

本部採用・作品選集掲載作品数2点

- ・東川小学校・地域交流センター（作品選集掲載作品）

小篠 隆生君：北海道大学

加藤 誠君：(株)アトリエブク

- ・木々と共にくらす家（作品選集掲載作品）

照井 康穂君：(株)照井康穂建築設計事務所

9. 3 建築文化週間

- ①テーマ：「道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために一國指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として」
- 主 催：日本建築学会北海道支部
共 催：北海道遺産活用活性化委員会
後 援：北海道教育委員会、札幌市観光文化局文化部、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道文化財保護協会、歴史的地域遺産研究機構、北の民家の会
- 日 時：2015. 10. 10（土）
場 所：札幌市立大学サテライトキャンパス
講 師：木村 勉（長岡造形大学教授）他
参加対象：学会員、一般市民（親子）、市町村職員、建築技術者、学生
参加者：101名
- ②テーマ：第40回（2015年度）北海道建築賞表彰式・記念講演会
- 主 催：日本建築学会北海道支部
日 時：2015. 10. 30（金）
講 師：中山 眞琴「HIGO 籤」の設計（第40回北海道建築賞）
山脇 克彦「HIGO 籤」の設計（第40回北海道建築賞）
山田 良「中の沢川の家」の設計（第40回北海道建築奨励賞）
- 場 所：北海道大学遠友学舎
参加対象：学会員、一般市民、建築関係者、学生
参加者：約80名
- ③テーマ：「地震時の我が家のバーチャル体験」
- 主 催：日本建築学会北海道支部
共 催：北海道釧路総合振興局
日 時：2015. 10. 31（土）
場 所：釧路市こども遊学館
参加対象：学会員、地域一般市町村民、行政職員、学生
参加者：133名

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名、開催数：1回)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。2015年度ジョイントセミナーは、岡田成幸北海道大学教授を講師に開催された旨報告があった。

10. 2 北海道建築設計会議（幹事会開催数：12回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、吉田栄一君と高松圭君の2名を参加させた。幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

12. 共催・後援

期 日	名 称	会 場	主 催
2015. 7. 19	建築家・安藤忠雄講演会 “生きる力”	北海道大学工学部フロンティア化学応用研究棟・鈴木章ホール	北海道大学工学研究院
応募締切 5. 30	第 6 回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ		(公社) 日本建築家境界北海道支部
6. 12	寒冷地における建築物の省エネルギー化実現に向けたヒートポンプ活用セミナー	北海道経済センタ一	(一社) ヒートポンプ・蓄熱センター
6. 16	「積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法研究委員会」活動報告会	北海道大学学術交流会館	(公社) 日本コンクリート工学会
応募締切 8. 7	第 40 回北の住まい住宅設計コンペ	北海道大学学術交流会館	北海道大学
10. 9	コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換～	グランドホテルニュー王子	(公社) 日本コンクリート工学会
10. 15	北方圏のまちづくり・エネルギー・木造建築に関するシンポジウム	北海道大学遠友学舎	北海道大学大学院工学研究院建築環境学研究室／建築史意匠学研究室
10. 24	親と子の都市と建築講座 2015 冬の避難所でどう過ごす？～避難所運営ゲーム体験ワークショップと講演～	宮城教育大学付属図書館	(一社) 日本建築学会東北支部環境工学部会
10. 30	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部研究発表会	札幌学院大学社会連携センター	(公社) 日本都市計画学会北海道支部
11. 28	平成 27 年度第 1 回都市地域セミナー「函館湾岸コンクリート物語」	ホテルリソル函館	(公社) 日本都市計画学会北海道支部
12. 8	サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2015	北海道大学学術交流会館	北海道大学
2016. 1. 26	地震防災セミナー	北見市立図書館	北海道
2. 14	第 26 回旭川建築作品発表会	ガーデンセンター	旭川まちなみデザイン推進委員会
2. 16	北海道支部地区講演会 (札幌) “ZEB 実現に向けた環境共生技術～実務からみた課題と展望”	北海道学術交流会館	(公社) 空気調和・衛生工学会北海道支部

II 2015 年度収支決算報告

2015 年度 貸借対照表

2016年 3月31日現在

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	2,752,993	2,989,299	△236,306	未払金	0	0	0
未収金	0	0	0	前受金	14,000	24,000	△10,000
前払金	168,684	168,684	0	預り金	19,973	20,011	△38
仮払金	33,214	33,577	△363	仮受金	582,411	584,715	△2,304
				貸与引当金	0	0	0
流動資産合計	2,954,891	3,191,560	△236,669	流動負債合計	616,384	628,726	△12,342
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	900,000	840,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	900,000	840,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,516,384	1,468,726	47,658
学術振興基金引当資産	5,150,000	5,150,000	0	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,610,000	2,810,000	△200,000	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	900,000	840,000	60,000	(うち基本財産への未当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,560,000	10,700,000	△140,000	(うち特定資産への未当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	12,560,057	12,984,384	△424,327
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への未当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への未当額)	(9,660,000)	(9,860,000)	(△200,000)
固定資産合計	11,121,550	11,261,550	△140,000	正味財産合計	12,560,057	12,984,384	△424,327
資産の部合計	14,076,441	14,453,110	△376,669	負債及び正味財産合計	14,076,441	14,453,110	△376,669

2015 年度 正味財産増減計算書

2015年 4月 1日から 2016年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(6,682,000)	(6,515,000)	(167,000)				
支部費	1,569,000	1,502,000	167,000				
支部経営助成費	1,800,000	1,800,000	0				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	542,000	542,000	0				
大会交付金	0	0	0				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	0				
他会計からの振替額計	6,682,000	6,515,000					
2. 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 表紙事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)	(1) 表紙事業会計	(1,701,821)	(1,504,502)	(197,319)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)	調査研究事業	(988,337)	(611,474)	(△376,863)
表彰関係	175,000	175,000	0	調査研究事業	988,337	611,474	△376,863
(2) その他の会計	(2,092,902)	(2,304,772)	(△211,870)	表彰・顕彰事業	(762,044)	(590,591)	(171,453)
研究集会事業	(2,092,902)	(2,304,772)	(△211,870)	表彰関係	757,554	587,003	170,551
支部研究発表会	1,019,528	1,181,308	△161,780	社会対応費	4,490	3,588	902
建築作品発表会	1,048,374	913,304	135,070	支部対応事業	(341,440)	(302,437)	(39,003)
過年度研究集会事業	25,000	210,160	△185,160	文化事業	323,664	285,666	37,998
大会事業	0	0	0	展示会事業	17,776	16,771	1,005
(3) 法人会計	(159,746)	(131,213)	(28,533)	(2) その他の会計	(1,965,484)	(1,940,912)	(24,572)
特定資産運用益	(2,758)	(3,073)	(△315)	研究集会事業	(1,965,484)	(1,940,912)	(24,572)
特定資産受取利息	2,758	3,073	△315	支部研究発表会	784,104	864,572	△80,468
雑収益	(156,988)	(128,140)	(28,848)	建築作品発表会	1,181,380	1,075,340	106,040
受取利息	978	1,129	△151	大会事業	0	0	0
雑収益	156,010	127,011	28,999	(3) 法人会計	(5,866,670)	(5,816,642)	(50,028)
				支部運営	(282,790)	(306,010)	(△23,220)
				支部総会	264,154	246,694	17,460
				支部役員会	18,636	37,716	△19,080
				選挙管理委員会	0	6,000	△6,000
				その他運営費	0	15,600	△15,600
				支部事務運営	(5,583,880)	(5,510,632)	(73,248)
				給与手当	1,850,690	1,848,670	2,020
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	323,637	323,443	194
				福利厚生費	23,620	24,850	△1,230
				通勤手当	176,040	164,760	11,280
				旅費交通費	12,930	55,930	△43,000
				通信回線費	124,660	121,349	3,311
				祭活雑費	34,570	31,292	3,278
				消耗品費	34,960	27,819	7,141
				印刷費	54,142	93,033	△38,891
				支払手数料	27,540	26,784	756
				賃貸料	141,840	115,920	25,920
				地代家賃	2,024,208	2,024,208	0
				水道光熱費	537,610	529,167	8,443
				雑費その他	157,433	63,407	94,026
経常収益計	2,427,648	2,610,985	△183,337	経常費用計	9,533,975	9,262,056	271,919
当期経常増減額	△7,106,327	△6,651,071	△455,256				
当期一般正味財産増減額	△424,327	△136,071	△288,256				
一般正味財産期首残高	12,984,384	13,120,455	△136,071				
一般正味財産期末残高	12,560,057	12,984,384	△424,327				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高	12,560,057	12,984,384	△424,327				

2015年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2015年4月1日 ～ 2016年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科 目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,628,000)	(6,682,000)	(▲ 54,000)
支部費収入	1,609,000	1,669,000	▲ 60,000
経営助成費収入	1,800,000	1,800,000	0
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	548,000	542,000	6,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計	6,628,000	6,682,000	▲ 54,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係	175,000	175,000	0
その他会計	(2,230,000)	(2,092,902)	(137,098)
研究集会事業	(2,230,000)	(2,092,902)	(137,098)
支部研究発表会	980,000	1,019,528	▲ 39,528
建築作品発表会	1,250,000	1,048,374	201,626
過年度研究集会事業	0	25,000	▲ 25,000
法人会計	(126,000)	(159,746)	(▲ 33,746)
特定資産運用益	5,000	2,758	2,242
特定資産受取利息	5,000	2,758	2,242
雑収益	(121,000)	(156,988)	(▲ 35,988)
受取利息	1,000	978	22
雑収益	120,000	156,010	▲ 36,010
経常収益計	2,531,000	2,427,648	103,352
実施事業会計	(1,840,000)	(1,701,821)	(138,179)
調査研究事業	(650,000)	(598,337)	(51,663)
調査研究事業	650,000	598,337	51,663
表彰・顕彰事業	(760,000)	(762,044)	(▲ 2,044)
表彰関係	720,000	757,554	▲ 37,554
設計競技	40,000	4,490	35,510
社会対応事業	(430,000)	(341,440)	(88,560)
文化事業	400,000	323,664	76,336
展示会事業	30,000	17,776	12,224
その他会計	(2,230,000)	(1,965,484)	(264,516)
研究集会事業	(2,230,000)	(1,965,484)	(264,516)
支部研究発表会	980,000	784,104	195,896
建築作品発表会	1,250,000	1,181,380	68,620
法人会計	(6,149,000)	(5,866,670)	(282,330)
支部運営	(244,000)	(282,790)	(▲ 38,790)
支部総会	200,000	264,154	▲ 64,154
支部役員会	40,000	18,636	21,364
選挙管理委員会	2,000	0	2,000
その他の運営費	2,000	0	2,000

科 目	予算額	決算額	差異
支部運営(非課税)	(5,905,000)	(5,583,880)	(321,120)
給与手当	1,800,000	1,850,690	▲ 50,690
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	325,000	323,637	1,363
福利厚生費	20,000	23,620	▲ 3,620
通勤手当	176,000	176,040	▲ 40
旅費交通費	30,000	12,930	17,070
通信回線費	172,000	124,660	47,340
発送運搬費	30,000	34,570	▲ 4,570
消耗品費	90,000	34,960	55,040
印刷費	100,000	54,142	45,858
支払手数料	35,000	27,540	7,460
賃借料	140,000	141,840	▲ 1,840
地代家賃	2,024,000	2,024,208	▲ 208
水道光熱費	648,000	537,610	110,390
雑費その他	255,000	157,433	97,567
経常費用計	10,219,000	9,533,975	685,025
当期経常増減額	▲ 1,060,000	▲ 424,327	▲ 635,673
当期一般正味財産増減額	▲ 1,060,000	▲ 424,327	▲ 635,673
一般正味財産期首残高	12,463,000	12,984,384	▲ 521,384
一般正味財産期末残高	11,403,000	12,560,057	▲ 1,157,057
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	11,403,000	12,560,057	▲ 1,157,057

監査報告

2015 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2016 年 4 月 25 日

支部監事 _____

支部監事 _____

Ⅲ 2016 年度事業計画方針案

1. 活動方針

北海道は独特の気候、風土をもち、建築や都市は、地域性、場所性の認識が必要である。地域性は、これまで北海道に内在する事象に向けられた切実な思いと眼差しが、高い解像度の研究を生み、グローバルな価値を有している。そして学術、産業においても共有されて、領域を超えた議論や交流がなされている。その場の一つが、北海道支部である。それは、専門委員会や特定課題研究委員会での研究活動であり、支部研究発表会や作品発表会の支部発表会に表れている。

(1) 支部活動の活性化と財政の強化

建築学会における支部の存在の重要性とともに、慢性的な支部財源の逼迫による支部運営への影響が出ている。これに関しては、理事会、支部長会議では支部費配分額の見直しがあったが、今後の継続審議の項目としている。

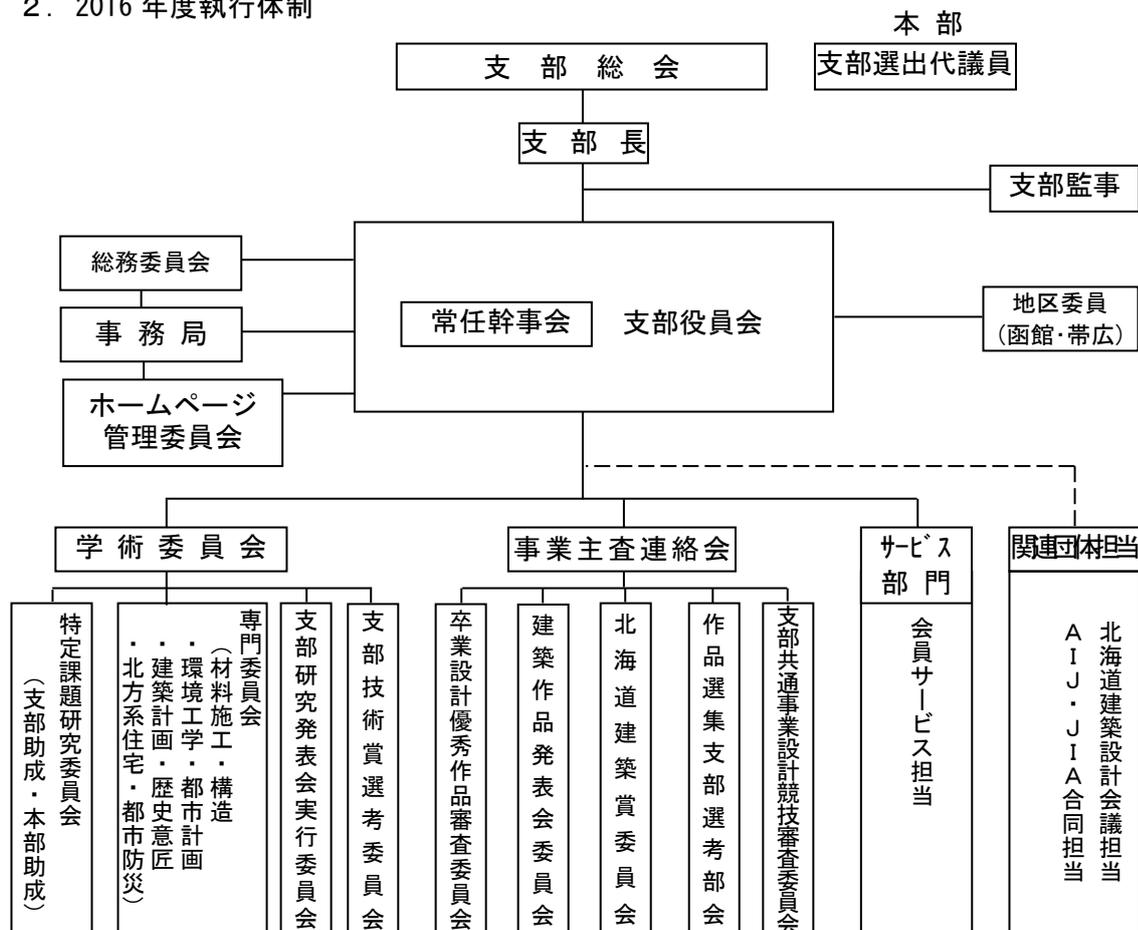
支部技術賞、支部研究発表会での若手発表者の顕彰また支部研での企業参加のパネル展は、研究活動の活性とともに会員の減少の歯止めとしても期待している。

日本建築学会「女性会員の会」は、学会男女参画推進委員会から建築分野で働く女性会員の意見交換や社会へ出てゆく女子学生との交流と提言を目的とし、北海道支部にあっては6月に第一回会合を予定している。

(2) 支部の情報発信

支部ホームページは、本部と連動しながらもプログツールやFacebookなどを用いた支部独自のHPが2016年5月には新しいHPに切り替わる。日常的に運営されるHP管理委員会規定が改定され、今後、情報の相互発信による会員活動の活性をうながしたい。

2. 2016 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2016.6.1~2018.5.31)

福島 明君 北海道科学大学教授

新任常議員(2016.6.1~2018.5.31)

小倉 寛征君 (株)エスエーデザインオフィス一級建築士事務所代表取締役
金田亮太郎君 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長
河合 有人君 (株)竹中工務店北海道支店設計部部長
後藤孝一朗君 (株)北海道日建設計業務推進部主任
佐伯 健一君 北海道札幌工業高校建築科教諭
※長谷川拓哉君 北海道大学准教授
※前田憲太郎君 北海道科学大学准教授
(※印 常任幹事)

新任常議員は、支部役員選挙開票(2016年4月4日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆小澤 丈夫君, 大條 雅昭君, 小西 彦仁君, 馬場 将考君, 原田 慎一君,

留任常議員(2015.6.1~2017.5.31)

赤坂 真一郎君 (株)アカサカシンイチロウアトリエ代表取締役
安藤 淳一君 道都大学教授
※魚住 昌広君 北海道科学大学准教授
大條 雅昭君 北海道建設部まちづくり局都市計画課区域・施設グループ主幹
谷口 円君 北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所
環境科学部構法材料グループ主査
馬場 将考君 岩田地崎建設(株)設計部総合主事
※原田 慎一君 清水建設(株)北海道支店主査
(※印 常任幹事)

新任代議員 (2016.4.1~2018.3.31)

串山 繁君 北海学園大学教授
下村 憲一君 (株)環境設計代表取締役
(2016年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出された)

留任代議員 (2015.4.1~2017.3.31)

岡田 成幸君 北海道大学教授
半澤 久君 北海道科学大学名誉教授

新任支部監事 (2016.6.1~2018.5.31)

本井 和彦君 (株)竹中工務店北海道支店設計部設計グループ副部長
(2016年4月の支部役員会で選出された)

留任支部監事 (2015.6.1~2017.5.31)

角 幸博君 北海道大学名誉教授

地区委員 (2016.6.1~2017.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

- ◆ 総会
 - 期日 2016年5月20日(金)
 - 会場 北海道建設会館
- ◆ 支部役員会 (複数回)
- ◆ 常任幹事会 (複数回)
- ◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：長谷川拓哉君, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認(技術パネル展の企画・運営)、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、現在、本部の学術系常置委員会において北海道支部会員が不在の委員会がいくつかある。一方、北海道支部の学術系専門委員会に本部の各常置委員会に主査を派遣していないケースも見られる(以下の表)。本部および支部が連携しながら学会活動を進めていくことは今後、ますます重要になると考えられる。今後、北海道支部内での本部の各常置委員会への会員派遣のニーズを把握するとともに、その必要性があれば、支部会員から当該専門分野で本部での活動に寄与することが期待される支部会員を本部常置委員会向けに積極的に推薦する。

本部と北海道支部の学術系専門委員会の関係 (2016. 3. 21 現在)

本部	北海道支部
材料施工委員会	材料施工専門委員会
構造委員会	構造専門委員会
環境工学委員会	環境工学専門委員会
建築計画委員会	建築計画専門委員会
都市計画委員会	都市計画専門委員会
建築歴史・意匠委員会	歴史意匠専門委員会
災害委員会	都市防災専門委員会
建築社会システム委員会(旧 建築経済委員会)	なし
地球環境委員会	なし(一部委員あり)
防火委員会	なし
建築法制委員会	なし
情報システム技術委員会	なし
建築教育委員会	なし
農村計画委員会	なし
海洋建築委員会	なし
なし	北方系住宅委員会

4. 2 専門委員会

◆材料施工専門委員会（主査：長谷川拓哉君，委員数：26名，委員会開催数：6回）

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施行現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会（話題提供）
- ・ 見学会の開催

◆構造専門委員会（主査：串山 繁君，委員数：22名，委員会開催予定数：2回）

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 構成委員数は22名。
- 2) 委員会は2回（6月，12月），幹事会は2回（9月，3月）の開催を予定し，必要に応じて通信会議を開く。
- 3) 講演会・講習会は，2回（随時）開催する。
- 4) 見学会は，建築物(施工中も含む)等を対象に2回程度（随時）実施する。
- 5) 勉強会は，委員会開催時に構造に関わらず幅広い分野を対象に行う。

◆環境工学専門委員会（主査：岸本 嘉彦君，委員数：18名，委員会開催予定数：4回）

2016年度は以下の活動を予定している。

- 1) 学位を取得した若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築、最新の設備技術を駆使している建築の見学会を実施する。北方系住宅専門委員会と連携して共催による見学会を実施する。
- 3) 「第11回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs' 16（会場：未定）」の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催 地区講演会ほか、本委員会の関係組織が主催する講演会、セミナー等を支援する。

◆建築計画専門委員会（主査：真境名達哉君，委員数：13名，委員会開催予定数：2回）

専門委員会の基本的意義である北海道の建築計画（学）分野にかかわる学会員の相互交流の場の形成、加えて精力的に社会貢献活動の展開を目指す。具体的には、(1)委員各々の取り組みを勉強会形式により相互に紹介、建築計画（学）に関わる様々な課題や問題についての情報を共有する、(2)積極的に公開研究会などを開催し、(3)今日の北海道において取り組むべき建築計画（学）に関わるテーマを具体的かつ体系的に整理する。

◆都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一君，委員数：14名，委員会開催予定数：5回）

2016年度の委員会活動は、2015年度に始めた大きな3つの論点について議論を深め、今後の都市計画に貢献する活動の具体化を目指す。3つの視点は、①都市計画専門委員会のあり方と役割、②様々な方面・分野の方々との意見交換、③意見交換から得られる新たな知見・視座等についての情報発信、である。これらを通じて、学生を含めた若手に対する都市計画の魅力発信、都市計画・まちづくりが改めて（若しくは新たに）認識すべき視点の発掘と発信に取り組む。なかでも、民間企業や金融機関あるいは商店会などの多様な主体各々が携わる事業・本業を通じて都市計画・まちづくりへと広がる波及効果について、委員会内で関心が高まりつつある。また、札幌市において大きく姿を変えつつある各所の事業現場を対象に、見学会の開催も検討する。

◆歴史意匠専門委員会（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名，委員会開催予定数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的な活動計画は以下のとおりである。

- 1) 建築文化週間事業として、毛綱毅曠の建築見学会を開催する。
- 2) 道内戦前馬産地における歴史的建造物の現状を把握し整理する。
- 3) 北海道内の文化財建造物については、道内ヘリテージマネージャーとの連携と運用の仕組みを引き続き検討する。
- 4) 『建築タイプの歴史』をテーマに勉強会を行う。

◆北方系住宅専門委員会（主査：谷口 尚弘君，委員数：12名，委員会開催予定数：3回）

新たな地域住宅像形成に向けた取り組みについて検討を進めるため、年3回の委員会を開催する。

- 1) 北海道の住宅歴史の「北海道の住まいの歩み」パネル展について、2015年度開催した大学以外及び各種団体と協力し開催する。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会（第9回）を実施する。
- 3) 本委員会の過去と将来に向けた展望について議論し、今後の研究・活動方針についてまとめる。

◆都市防災専門委員会（主査：戸松 誠君，委員数：19名，委員会開催予定数：2回）

■活動方針

委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

■主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」への支援（10月頃を予定）。
- 2) 構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。
- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 4) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

(2016年度より)

◆戦前馬産地の建築研究委員会（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名
委員会開催予定数：複数回）

北海道における戦前馬産地の建築とその変遷に関する基礎的な研究を行う。

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2015年度より)

◆寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究委員会
(主査：森 太郎君，委員数：5名，委員会開催予定数：複数回)

2016年度は以下の活動を予定している。

- 1) 2015年の調査結果を日本建築学会北海道支部研究報告会，日本建築学会大会にて報告する
- 2) 釧路市の若年層を対象としたアンケート調査を実施する（釧路工業高等専門学校，釧路市内中学校対象）
- 3) 釧路市，釧路町の母子健康相談時にアンケート調査を実施する。
- 4) 生活実態の向上にむけたフィードバックが可能なアンケート形式を検討する。
- 5) 科学研究費補助金への応募を検討する。
- 6) 研究成果を日本建築学会環境系論文集に投稿する。

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：岡本 浩一君，幹事：三浦 誠君，委員数 16 名，委員会開催予定回数：6 回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 特別企画の実施および技術パネル展開催の支援
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集（冊子および CD-ROM）の作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の選定・授与

支部研究発表会の実施

第 89 回北海道支部研究発表会

日時：2016 年 6 月 25 日（土）一般研究発表会、会長講演、技術パネル展

場所：北海道職業能力開発大学校（小樽市）

懇親会：講演会終了後に小樽ビール工場にて開催予定

原稿提出締切：2016 年 4 月 14 日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：http://olive-sg.eng.hokudai.ac.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子および CD-ROM）No.89 を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：山田 深君，委員数：7 名，委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の 3 つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第 41 回北海道建築賞の応募期間：2016 年 4 月 15 日（金）～5 月 15 日（日）
- 2) 審査期間：5 月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6 月中旬（書類審査）～7・8 月（現地審査）～9 月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9 月
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10 月 28 日（金）予定

（3）委員構成

昨年度に引き続き、以下の委員により委員会運営を行う。

山田深（室蘭工業大学：主査）、小篠隆生（北海道大学）、齋藤利明（札幌市立大学）、佐藤孝（北海道科学大学）、海藤裕司（山下設計北海道支社）、福島明（北海道科学大学）、赤坂真一郎（アカサカシンイチロウ・アトリエ）

（4）記念誌の発刊

第 40 回の節目を迎えたことにより、1990 年より現在（1990 年までは、既発刊の記念誌で網羅している）までの審査講評などをまとめた記念誌を発刊予定。

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の 3 つの視点から現地視察、議論を通して

選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催予定数：1回）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2016年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2015年度と同様、2016年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：4名，実行委員数：11名，委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2016年度は、建築作品発表会が第36回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去三十数年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく35年目の発表会用プログラムを検討して行きたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

7. 2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員， 予定開催数：複数回）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：白井 和貴君，担当常議員，委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2016年度）

委員長：白井 和貴君 北海道大学

委員： 新任常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，委員数：2名，委員会開催予定数：複数回）

2016年度は以下の活動を予定している。

- 1) 役員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) 支部新ウェブサイトの全面更新を行う。（内容は修正済み）
- 3) 各委員会ページ等の運用方法について検討を行う。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2016年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2016年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良君，委員数：5名，委員会開催予定数：1回）

2016年度設計競技審査委員会は、主査：山田良、委員：赤坂真一郎、久野浩志、小西彦仁、山之内裕一の5名で行う予定である。

2016年度の課題は「残余空間に発見する建築」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。

2015年度の応募総数は、6案で、前回は応募作品数9案を下回った。とはいえ、近年は、道外からの応募もあり、応募数の増加が見込まれる予感はある。今後の活況を期したい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：山田 良君，委員数：6名，委員会開催予定数：2回及び現地審査）

2015年度の応募総数は前年度から一点増え7作品であり、内訳は住宅・居住施設1点、集会・拠点施設1点、体育施設1点、教育施設1点、業務施設2点、商業施設1点であった。全国の応募総数が前年度より70点多く399点であったことに比べれば北海道支部の応募を積極的に募ることが求められる。また、現地審査は最も重要な審査工程であるため、これまで同様可能な限り多数の審査委員により行いたい。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。（創立130周年事業）

1. 「くしろ防災屋台村」（都市防災専門委員会）
2. 「建築散歩～毛綱建築を楽しむ」（歴史意匠専門委員会）
3. 第41回北海道建築賞表彰式・記念講演会（支部主催）

11. 建築関連団体との活動

11. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：9名，委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

11. 2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2016 年度収支予算案

2016 年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2015年度予算額	2016年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,628,000)	(6,601,000)	(27,000)
支部費	1,609,000	1,590,000	19,000
経営助成費	1,800,000	1,800,000	-
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	-
建築文化事業費	548,000	540,000	8,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	-
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	-
他会計からの振替額計 (A)	6,628,000	6,601,000	27,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(325,000)	(▲150,000)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(325,000)	(▲150,000)
表彰関係事業	175,000	325,000	▲150,000
その他事業会計	(2,230,000)	(2,160,000)	(70,000)
研究集会事業	(2,230,000)	(2,160,000)	(70,000)
支部研究発表会	980,000	1,080,000	▲100,000
建築作品発表会	1,250,000	1,080,000	170,000
大会事業	-	-	0
法人会計	(126,000)	(126,000)	(0)
特定資産運用益	(5,000)	(5,000)	(0)
特定資産運用益	5,000	5,000	-
雑収益	(121,000)	(121,000)	(0)
受取利息	1,000	1,000	-
雑収益その他	120,000	120,000	-
経常収益計 (B)	2,531,000	2,611,000	▲80,000
[経常費用]			
実施事業会計	(1,840,000)	(2,210,000)	(▲370,000)
調査研究事業	(650,000)	(740,000)	(▲90,000)
調査研究事業	650,000	740,000	▲90,000
表彰・顕彰事業	(760,000)	(1,040,000)	(▲280,000)
表彰関係事業	720,000	1,000,000	▲280,000
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(430,000)	(430,000)	(0)
文化事業費	400,000	400,000	0
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(2,230,000)	(2,060,000)	(170,000)
研究集会事業	(2,230,000)	(2,060,000)	(170,000)
支部研究発表会	980,000	980,000	0
建築作品発表会	1,250,000	1,080,000	170,000
法人会計	(6,149,000)	(6,152,000)	(▲3,000)
支部運営	(244,000)	(310,000)	(▲66,000)
総会	200,000	250,000	▲50,000
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	4,000	20,000	▲16,000
事務運営	(5,905,000)	(5,842,000)	(63,000)
給与手当	1,800,000	2,000,000	▲200,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	325,000	325,000	0
福利厚生費	20,000	25,000	▲5,000
通勤手当	176,000	176,000	0
旅費・交通費	30,000	30,000	0

科 目	2015年度予算額	2016年度予算額	前年度比 (増 減)
通信・回線費	172,000	125,000	47,000
発送・運搬費	30,000	34,000	▲4,000
消耗品費	90,000	50,000	40,000
印刷費	100,000	100,000	0
地代・家賃	2,024,000	2,024,000	0
水道光熱費	648,000	648,000	0
支払手数料	35,000	30,000	5,000
賃借料	140,000	145,000	▲5,000
雑費その他	255,000	70,000	185,000
経常費用計 (C)	10,219,000	10,422,000	▲203,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲1,060,000	▲1,210,000	150,000
当期一般正味財産増減額	▲1,060,000	▲1,210,000	150,000
一般正味財産期首残高	12,463,000	12,984,000	▲521,000
一般正味財産期末残高	11,403,000	11,774,000	▲371,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	11,403,000	11,774,000	▲371,000

支部特定資産積立と取崩の実績と予定

(2015年度実績 2016年度予定)

	2015年度 特定資産積立・取崩 実績				2016年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2014年度末残高	2015年度積立	2015年度取崩	2015年度末残高	2016年度積立	2016年度取崩	2016年度末残高
学術振興基金引当資産	5,150,000円	0円	0円	5,150,000円	0円	△390,000円	4,760,000円
支部基金引当資産	2,810,000円	0円	△200,000円	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	840,000円	60,000円	0円	900,000円	60,000円	0円	960,000円
合計	10,700,000円	60,000円	△200,000円	10,560,000円	60,000円	△390,000円	10,230,000円

【2015年度 積立・取崩実績】

支部基金引当資産 ホームページ整備費用として200,000円を取り崩した。

退職給付引当資産 2014年度職員退職給付引当金として60,000円を積み立てた。

【2016年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産 ①40周年記念誌刊行費用として300,000円を取崩予定。②特定課題研究委員会に90,000円を取り崩し予定。

①と②の合計で390,000円を取崩を予定

退職給付引当資産 2016年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿

2016年3月末現在

◆法人正会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00547-58	1	戸田建設(株)札幌支店
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コーポレーション
00505-50	2	岩田地崎建設(株)	00557-04	1	日鐵住金セメント(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00614-45	1	日本データサービス(株)
00729-26	1	亀田工業(株)	00560-51	1	(株)日本設計札幌支社
00517-00	5	鹿島建設(株)	00561-82	1	日本防水総業
00614-38	1	(株)ホーム企画センター 総務部	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00523-82	2	(株)熊谷組	00625-81	1	(株)アトリエアク
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00586-89	1	北農設計センター
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00597-74	1	(株)総研設計
00540-41	5	大成建設(株)札幌支店	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00568-07	1	(株)ドーコン
00544-49	2	(株)竹中工務店 北海道支店	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00674-76	1	(株)安藤・間札幌支店	00568-15	2	北海道コンクリート 工業
00674-84	1	五洋建設(株)札幌支店	00531-84	1	清水建設(株)北海道支店
00549-52	1	東急建設(株)札幌支店	00538-83	2	(株)田中組
00710-77	1	(株)久米設計札幌支社	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00684-22	1	(株)サンキットエーイー	00685-29	1	(株)北海道不二サッシ
00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)	00704-45	1	(株)アトリエブンク
00725-28	1	(株)コバエンジニア	00704-09	2	(一財)北海道建築指導 センター
00725-36	1	(有)北欧住宅研究所			
00721-70	1	(株)土屋ホーム			

◆贊助會員

會員番号	口数	會員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00847-03	1	(株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>